



SUZUKI・Y 250 改・Yajima special

# 遥かなる青空の彼方に

日本一周 Vol.09

1978年8月11日～1982年8月17日

遥かなる青空の彼方に 其の玖

<http://p.booklog.jp/book/35566>

著者 : lauriercb4004in1

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/lauriercb4004in1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35566>

ブックログのpapier本棚へ入れる

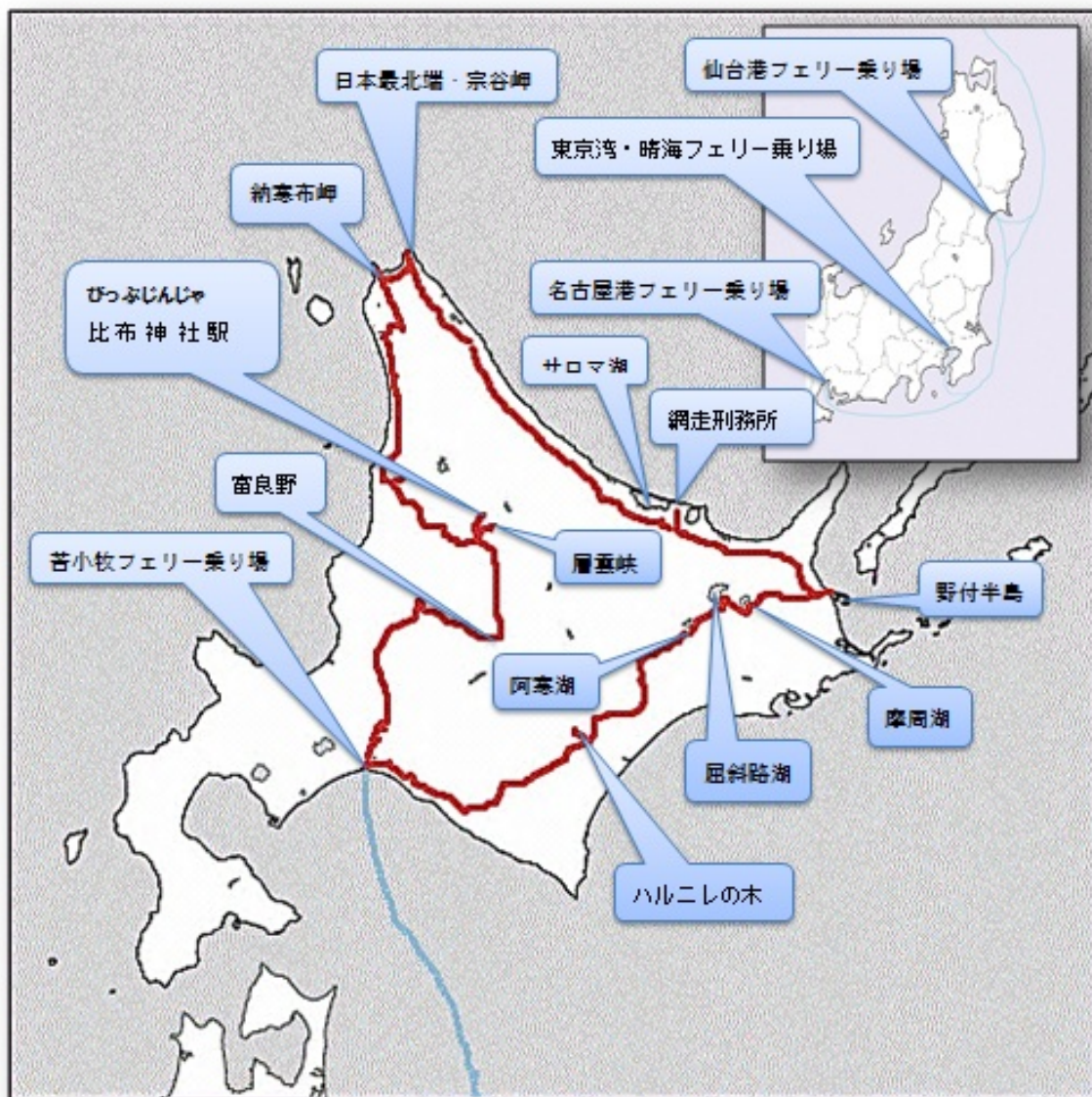
<http://booklog.jp/puboo/book/35566>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

北海道 編 (1981年 8月8日~15日)

全走行経路



全走行距離 2,318.0km・燃費 12km/ℓ

1981年 8月8日(土) 曇りのち晴れ

AM0:25、あと13時間で北海道に旅立つ。

CB400・FOURの走行距離は、36,195.1km

昨日のAM10:00頃、浜松短期大学の先輩で地元、北海道の富良野に帰っているチーコさんから手紙が届く。

今年の年賀状で、夏にオートバイで北海道に行く事を知らせたらチーコさんから連絡が来て『遊びにおいで!』と言って来たので家までの地図が送ってもらった。

PM1:00、雨が降り始める。

PM3:00、雨が止んだので出発する。(このまま、降らなければ良いのだが!)

PM3:35、東名高速道路、浜松I・Cに到着。

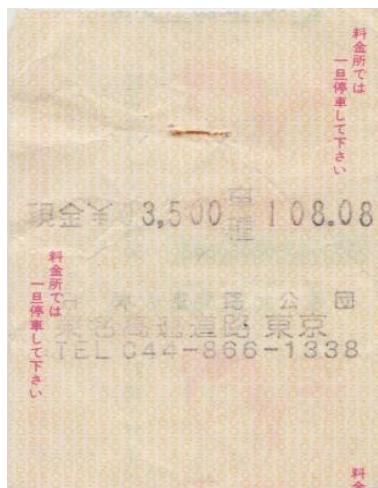
浜松I・Cから東名高速道路で東京I・Cまで走り、首都高速道路を經由して晴海ふ頭・フェリー・ターミナルを目指す。

東名高速道路に入ってからオートバイの調子が悪く、エンジンが吹かなくなった。(マフラーから黒い排気ガスが出ている)

富士川を過ぎたあたりから雨が再び降り出す、雨宿りを兼ねて富士川S・Aのガソリン・スタンドに寄りガソリン給油をし、スタンドの工具を借りて大急処置のエアークリーナーの掃除をする。

燃費10km/l最悪の燃費だあ!こんな事で北海道を周る事が出来るだろうか?

PM6:40、東京I・Cに到着。



(東名高速道路の領収書)

初めて走る首都高(¥400)は緊張する、降りるラップを間違えない様にしないと晴

海に着けなくなってしまう。



(首都高速道路の領収書)

首都高・高速3号線に乗り晴海を目指す、頭の中で『谷町I・Cから一ノ橋I・Cを右へ行き、浜崎I・Cを左へ行き、汐留I・Cを右へ新宿ラップで降りる』を暗証しながら走る。

PM7:25、晴海に到着するが港が広すぎる。

フェリー・ターミナルに行く道を左に曲がるのを右に曲がってしまい迷いに迷って40分・・・。

PM8:00前に、何とかフェリー・ターミナルに到着して乗船手続きを終えて一服。(駐車場には、オートバイが20台位、乗船を待っている)

●東京→西小枝		●西小枝→東京	
船名	時刻	船名	時刻
しほり	10:00, 11:00, 12:00, 13:00, 14:00, 15:00, 16:00, 17:00, 18:00, 19:00, 20:00	しほり	10:00, 11:00, 12:00, 13:00, 14:00, 15:00, 16:00, 17:00, 18:00, 19:00, 20:00
ア・サ・シ		ア・サ・シ	
ブルーキャビン		ブルーキャビン	
グリーンキャビン		グリーンキャビン	
赤いキャビン		赤いキャビン	
船内案内所		船内案内所	

(船内の案内・予定表)

PM11:35、乗船、北海道に向かって出発！オートバイを船底に駐車して乗船券を確認して大部屋番号を探す。

2等の大部屋は子供が走り回り親は怒鳴っている、枕と毛布一枚の雑魚寝の様だ。



(ターミナルで知り合った人と出航前に記念撮影)

全走行距離 276 km・燃費 不明

8月9日（日） 曇り

AM6：00、一度目が覚める。

寝ていると床から船のエンジン音が響いて耳に付く……。 （船は、揺れている……。また、寝る）

AM8：10、朝食を食べに船内のセルフ・サービスの**レストラン**で、オレンジ・ジュースとパンと卵料理で軽く済ませる。（天候が悪いせいか船は揺れる……）



（レストランのメニュー）

オートバイが心配になり、デッキを降りてオートバイが置いてある船底まで様子を見に行くが、船底が広くてオートバイを置いた場所が分からなくなってしまい迷う。

乗船した時の記憶を辿って、何とか探し出す。

これは、真剣に覚えて置かないと下船する時に大変な事になる。

天気は回復しない、甲板に出て暇を持て余していると白糸の滝の近くから来た人（オートバイはCB750E）が話をして来た。

北海道の周るコースやオートバイの話で盛り上がる、この人にビールをオモッテもらう。（昼から海を見ながら飲むビールいいですねえ！天気が良かったらもっと良いのだけど！）

話が尽きてCB750Eの人は部屋に戻り、俺一人……。

また、ボ～ットする。（やる事が無い……暇だ……）

潮風で体がベトベトしてきたので、風呂に入りに行くが2等の風呂は人で混雑して、入る事が出来ないので時間をずらして後で入ろうと思って廊下を歩いていると1等の風呂が在り、中を覗いたら誰も入って居なかったので汗を流させてもらった。

人間、容量ですねえ！船は太平洋の上、夕食を食べて寝る・・・。

全走行距離 0 k m



8月10日（月） 雨のち晴れ

AM6：45、船内放送が在り船は苫小牧に到着。

荷物を持って、オートバイが置いてある船底に行き荷物を取り付ける。

船底に置いてあるオートバイが一齐に暖気運転を始める。

みんなが、いち早く北海道に第一歩を踏み台たくて気持ちが高ぶっているのが伝わってくる。

俺が乗船した時より、オートバイが約40台ほど増えている様だ。

上陸、第一日目の苫小牧は雨が降っている船内の放送では、俺が向かう帯広地方は雨のち晴れ。



（船内で買った！）

上陸と共にツアーリスト達は軽く挨拶を交し、それぞれの目的地に向かって走り出す、フェリー・ターミナルの近くのガソリン・スタンドで給油を済ませカッパに着替える。

オートバイを満タンにし国道36に入って帯広に向かう雨は国道235を走っている間に晴れ間が見えて来て雨が上がる。

まだ、北海道に来た実感が湧かないのは、広い草原の中を走るイメージが強すぎるのか。

道は、所々ダートに変わり穴も開いている穴に水が溜まっていて穴の深さが解らないので穴を避けながら走る、オートバイは相変わらず調子が悪い！燃費も悪く成っているの

で早目にガソリンの補給をしないと。

苫小牧から走って100kmになるが国道沿いには、ガソリン・スタンドは無く街に入らないとガソリン・スタンドがない様だ。

国道237に入って街に入り、Mobilのガソリン・スタンドで休憩と給油する燃費が12km/l燃費が悪い普通、一定速度で走っていれば22km/l~25km/lは行くのに！

スタンドの兄ちゃんが、ガソリンの代金を¥55マケテくれた、スタンドの事務所の中で兄ちゃんと雑談をしばらくして時間を過ごす、お礼を言って帯広に向かう。

黒い排気ガスは出なくなったが、エンジンの吹き上がりが悪く時々カブってしまいエンジンが止まってしまう時がある出発前、家で最低限の整備をして来たのにどうしてかな~あ。

国道は、工事中の道路が多く舗装されていない道が多い。

また、ダート道だと思いつつ道を走っていたら何処で道を間違えたのか分からないが帯広に行く道を間違えた、ダート道以外の舗装道路は80km位で走っているし、次の標識が出てくるまで間違えている事に気づかない北海道で一度、道を間違えると本土とは違い引き返す走行距離が桁外れだあ！

帯広に入ったが予定よりだいぶ遅れて、このまま計画通り走っていたら今日の目的地の阿寒湖に着く頃には日が沈んでしまう。

道を間違えたのと、ダート道で時間を費やしてしまったので幸福駅・愛国駅は行くのを諦め、豊頃町のハルニレの木（樹齢100年以上の大木）に向かう。

帯広市を抜けて国道38を南下し、十勝川に出る。

この辺のはずだが一向に看板とハルニレの木が見えてこない、十勝川を渡る橋に差し掛かり、信号待ちの渋滞に巻き込まれて橋の真ん中で停止し、十勝川を眺めて橋の欄干に目線移すと小さい看板に【ハルニレの木⇒】があった。

矢印の方に視線を向けると河川敷の所に木が一本見える『あれかあ！』ハルニレの木に行く道は、橋を渡る前の十勝川の河川敷沿いに入る細い道。

橋を渡り切り方向展開をし、ハルニレの木に向かう。（走っていたら、あんな小さな看板では絶対に見落とす！）

『土手の上から見るハルニレの木は大木には見えないと言う事は、かなり歩くという事かあ！』

ハルニレの木まで行くには、土手を降りて草むらの中を歩いて行く、そばに行くとかかなりデカイ！さすがに樹齢100年以上、一本の木とっていたが二本の木が重なっている、枝の広がり均等で無いので創造していた傘を広げた型には見えない、木の全

体を写真に収めるには、かなり離れて撮らないと全体が入らない。

しかし、ここは何も無い駐車場も無ければ売店も無し説明の看板だけだ。



(説明看板の他に周りに何も無いハルニレの木)

ハルニレの木をあとにして、国道38に戻り足寄町に向かう途中に牧場があって、馬がいたので写真を撮る。



(足寄町に行く途中の牧場で)

足寄町に入ってから、休憩でドライブ・インに立ち寄ると【松山千春】の巨大な顔看板とCMソングが流れている。(お土産は千春の物ばかり、さすが！松山千春の地元・・・)

お土産屋さんで、マリモ饅頭とトモロコシのバター焼きとジャガイモのバター焼きを食べてしばらくして、お腹が痛くなる(食べ合わせの相性が悪いようだ)持参してきた正露丸を飲んで、お腹の痛みが治るまで、しばらくここで長めの休憩。

足寄町のドライブ・インをあとにして、国道241を阿寒湖に向かってひたすら走る、工事中の道路が無くて走りやすい。



(腹痛が治って足寄町をあとにする)

PM 4 : 1 1、阿寒湖に着く。

阿寒湖にユース・ホテルに泊まろうと思って行ってみたら、満室で断られた、人気のユース・ホテルに泊まる時は飛び込みは無理で、事前の予約が必要という事を再確認させられた。

阿寒湖の近くにキャンプ場があるので今夜はテントを張って寝る事にした、テントを立てて夕ご飯の支度に取り掛かり、ハンゴウでご飯を炊いて、インスタント・カレーと缶づめを食べる。

夕食後、近くにあるアイヌ村まで歩いて行って民芸店を覗いて、お土産を買う。

全走行距離 381.8 km・燃費 12 km/l

8月11日（火） 曇りのち晴れ

AM5：00、起きる。

夏と言えど北海道の朝は少し寒い。

キャンプ場は、まだ寝ている人が大半だ！朝ごはんの支度をし、ご飯と缶詰で済ませる。

AM6：30、荷物をまとめて今日の目的地のサロマ湖に向かって出発、洗面道具をしまい忘れ、中に入れるのが面倒なので荷物の上に縛り付ける。



（阿寒湖のキャンプ場）



（阿寒湖の湖畔）

阿寒湖をあとにして、国道241から国道243に入り屈斜路湖を目指す。



(霧の中、美幌に向かう途中)

屈斜路湖までの道路は、整備されていて走りやすいが所々で霧が出ている。道路脇の林に、エゾ鹿が居るのに気付いてオートバイを停めて、写真を撮ろうと構えた瞬間に林の中に姿を消してしまった。(野生のエゾ鹿を見れたのはラッキーだ！)



(美帆路峠の頂上から屈斜路湖が一望できる)

国道243で屈斜路湖に到着。(駐車場にオートバイを置いて湖畔まで歩いて行く)



(屈斜路湖の湖畔の土を少し掘ると温かい水が湧いてくる)

売店の横には屈斜路湖に住んでいるという【クッシー】と思われる創造の巨大な恐竜が置いてある。

売店の横に在った、コンクリートの水槽の中に巨大ウナギがいた。

駐車場に戻ると、オートバイが5～6台増えていた。(この人達と少し話をして別れる)

屈斜路湖をあとにして、硫黄山に向かう。



硫黄山は歩いて水蒸気の噴き出し口まで近づく事が出来た、帰りに売店に寄って、お土産を物色していたら売店おばさんが『何処から来たの?』と話し掛けてきて『静岡県の浜松から来たよ』と言うと『私、静岡市から、お嫁に来たんだと言う』時間つぶしに、おばさんの思い出話に付き合う。



(硫黄山)

硫黄山をあとにして、摩周湖に向かうが観光バスが前を走っていて、登り坂で渋滞の原因を作っている、カーブの多い登り坂で、抜くに抜けないから我慢するしかない。摩周湖の展望台の駐車場は、自動車ですべてでオートバイを置く場所が無く、路肩にオートバイを置いて展望台の階段を団体観光客と一緒に上るが、摩周湖には霧が掛かっている何も見えないと思ったが一瞬、霧が晴れた！観光バスのガイドさんの話を聞いていたら年間で霧が掛かっている方が多いとの事。



(霧が一瞬の晴れた瞬間)

摩周湖をあとにして、国道243に戻って野付半島に向かう途中の弟子屈町では、霧が街全体を包んで視界10メートル！弟子屈町を抜けると霧は晴れて来た、霧が出たり晴れたりして不思議な所、弟子屈町を抜けて国道272に入り野付半島に向かう。

国道から外れて野付半島に入ると行き成り工事中で、ダート道に変わり砂利でハンドルを取られて転倒しそうになる。(アブナカッタ)

野付半島の駐車場は霧で前が見えない。

野付半島は、地盤沈下で海水が入り込み松などの原生林が立ち枯れした場所。



(霧の中の野付半島の駐車場)

歩いていても立ち枯れた木しかなく、景色の変化が無い！途中で引き返す。(霧は来た時よりは、視界が開けて来た)



(野付半島の風景)

国道272に戻り、しばらく走って国道244に入り網走市に向かう。

野付半島から100km走った地点で洗面道具の袋を落したのに気が付いたが、100kmの道のりを洗面道具の入った袋を探すは無理があるので諦める。

野付半島の帰り道のダート道で袋が落ちているのは見たが、まさか俺の荷物だとは思わなかった・・・。

『まあ！洗面道具は、網走市に着いてから買えばいい』と考えながら国道272で網走市を目指す。

網走市に入り、雑貨店を見つけて歯ブラシと歯磨き粉を買い、電気カミソリが欲しかったが、この店では置いて無くて仕方が無くT字の剃刀を買う。

買い物を済ませて網走刑務所に向かう。

場所が分らず『感』で走っていたら目の前に刑務所が見え、ここも観光客で混雑している。



(網走刑務所跡)

刑務所跡の中に入ろうにも、行列ができいて時間が掛かりそうなので諦める。（駐車場には、オートバイが10台とまっている）

網走刑務所跡をあとにして、国道244に戻りサロマ湖に向かう途中で、行きフェリーでビールをオモッテくれたCB750Eの人とすれ違う。

彼は、知床半島の方角に向かって走っていった。

サロマ湖で昼食を食べ、給油をする。

昼食を食べたラーメン屋で新聞を読んでいたら、記事の中で『今年もミツバチ族が各地に大量に発生』と書いてあった。

『ミツバチ族』とは・・・？

記事の内容から察すると、オートバイで北海道をツーリングをしている人の事の様だ。

『ミツバチ族』そう呼ばれているとは初めて知った！

サロマ湖は、夕日が綺麗だと聞いていたから今日はサロマ湖のキャンプ場に泊まろうと思って場所を探したが分からない。

案内看板を見逃したのか？走り回って探したが見つからず、人に聞くにも民家がなくて聞けない、ここで迷っていても仕方がないから紋別市まで走る事にした。

サロマ湖をあとにして、国道244を紋別市まで、ひたすら霧の中を走る。

霧は紋別市に着いても晴れる事は無く、霧の街の中で紋別ユース・ホステルを探す。

紋別ユース・ホステルに、飛び込みで泊まれると思っていたが無理だった。

紋別ユース・ホステルの横に民宿（¥2,600）があつて今夜、泊まれるか聞いたら『相部屋に成るかも？それでも良ければ泊まって下さい』と返事が返って来た。

風呂に入って、くつろいでいたら後からライダー2人と相部屋になり、3人でビールで乾杯！つまみは俺のキャンプ用の食料、缶詰。



(国道422での野生の北キツネに遭遇！)

全走行距離 465.1 km・燃費 12 km/l

8月12日（水） 雨のち晴れ

AM4:50、朝から雨が降っている相部屋の人たちを起こさない様に、成るべく静かに荷物を持って部屋を出る。

出発の準備をしていると、相部屋になった人の一人が起きてきて『気を付けて行って下さい』と言ってくれた。

今日は、最北端まで行き、そこから南下して道央までの約500km走行し塩狩で泊まる予定。

AM5:07出発、雨は止まないCB400・FOURは、不調のまま、応急処置をしても調子は良くならない。

国道238を1時間位、走っても民家は無く自動車は走ってこない。

まっすぐに伸びる一本道と原野と右手に見える太平洋それと、たまに現れる林を通り過ぎる。

浜頓別町に入ってようやく軽食店があって、パンとコーヒーで空腹を満たす。

軽食店で一緒になった人で自動車（島根ナンバー）で、一人旅をしている人に道路状況を教えてもらう。

パンとコーヒーでは満腹に無らないが腹の足しになり、再び国道238をひたすら宗谷岬を目指して走っている内に雨が小降りになり、雲が切れ始めて地平線の向こうが明るくなって来た。

道路の先の地平線の向こうに小高い丘が見えて来たので、最北端に近づいて来た事が分かる。

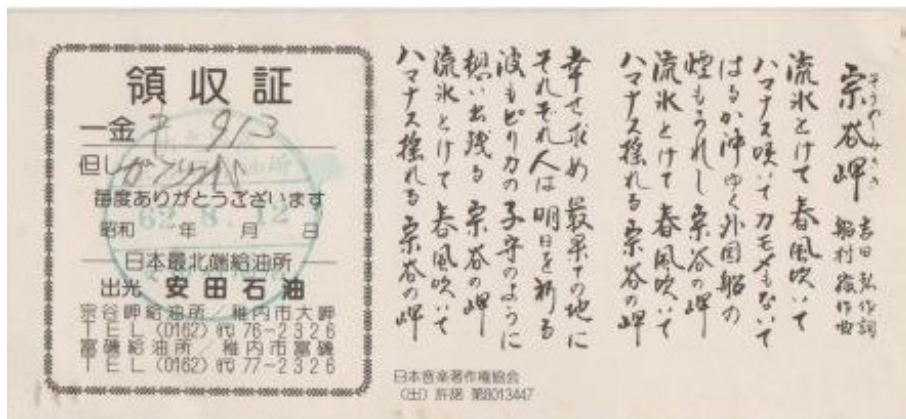


（俺の身長より高い干し草、登るのに苦労した）

浜頓別町から260kmくらい走り、AM9:00頃に宗谷岬に到着。

まずは、オートバイに給油をする、日本の最北端に一軒だけあるガソリン・スタンド！  
聞いただけで何だか凄い。

日本最北端での給油した人だけに、発行してもらえる証明書カードをもらう。

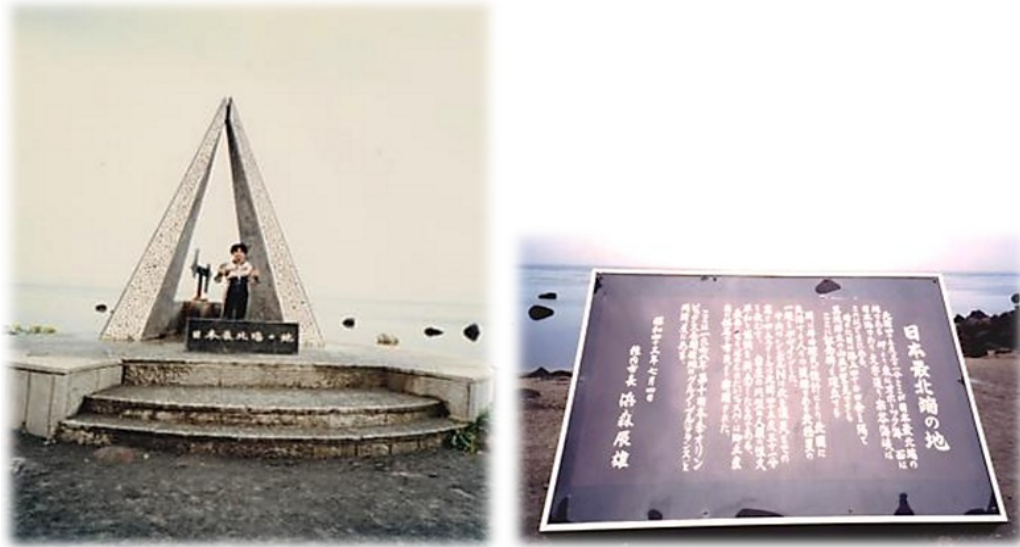


(最北端ガソリンスタンド発行の証明書)



(宗谷岬だけで売っているステッカー)

風が強くて寒い中、夏なのに気温7度、寒い！観光客が順番待ちで最北端の碑の前で記念写真を撮っているオートバイが8台、順番を待っていたので俺も並んで待つ。  
順番が来て、**最北端の碑**の前に行って記念写真を撮る。



(最北端の碑、気温7℃の中の記念撮影)

最北端には、数軒の店が並んでいて、どの店もストーブを炊いて店の中は温かい。お土産を買い、店の裏手にある丘に登って宗谷岬とオホーツク海が見る、晴れていれば霞んで樺太島（サハリン）を眺めれるが、曇っていて島は見えない。丘の上は草原と要塞跡と観測所があるだけで、海風が強く夏だと言うのに風が冷たい気温はさらに下がり6℃寒い・・・。

最北端をあとにして、国道238で稚内市に向かう。  
野寒布岬（ノシャップ岬）にAM10：25到着。





(何もない！ノシャップ岬)

晴れていれば礼文島・利尻島が見えるのに残念。

ここで沼津ナンバーのRZ250の人と会い北海道の話をして、少し早目の昼食（ラーメン）を食べる。

AM11:05出発、国道40（名寄国道）を南下し、名寄市を抜けたあたりから雨が降り出して凄い大雨になる。

舗装道路が切れている道で、自動車の家族づれが路肩のヌカルミで自動車のタイヤが空転して動けなくなっていた。

俺と通り掛かりのトラックの運ちゃんとで、自動車を押してヌカルミから出してやった。

自動車から父親さんが出て来て『出してくれありがとう！』と言って、お礼にと¥1,000くれた。（もらった¥1,000は、すぐにガソリン代に消える）

国道40（名寄国道）は大雨の影響で、途中から通行止めになっていた。

仕方が無く、少し戻って国道232を日本海を見ながら南下、パンツまで雨が染み込み下半身が冷たい。

途中から国道239（霧立国道）に入り、道中に士別市に向かうが途中から通行止め！『またかあ』と叫んでしまう。

再び、国道232に戻り日本海を見ながら南下し、留萌市を目指す。

留萌市から国道233を走り国道12で旭川市に入る。（旭川市は都会だ、道幅も広く、大きなビル群が立ち並ぶ）

旭川市を抜けて、国道40で北上し塩狩市まで走り今夜の宿、塩狩ユース・ホテルに向かう。

ガソリン・スタンドで給油し、スタンドの兄ちゃんに塩狩ユース・ホテルまでの道を教えてもらう。

塩狩ユース・ホテルにPM5:30に到着。（凄い人数でユース・ホテルには混雑している）

塩狩ユース・ホテルは、温泉旅館に隣接していて温泉に入る事が出来る。



全走行距離 546.1 km・燃費 20 km/l

8月13日（木） くもりのち晴れ

AM6：00、起きる。

ユース・ホステルに誰でも使っていていい、洗濯機が在ったので溜まった洗濯物を洗う。洗濯をしていたら数人の女子が来て『いつまで使っているの！』と文句を言われる。（女は集団に成ると怖いなあ・・・）

空いていたから使っただけなのに、それに洗濯機はセットした時間が来ないと終わらないのに！文句を言われてもねえ・・・。

半渴きのまま洗濯物をしまって、AM9：00出発。

CB400・FOURは不調ままで、加速すると黒い排気ガスを出す。

塩狩ユース・ホステルをあとにして、国道237を南下し、テレビのコマーシャルで有名になった比布神社(びっぷじんじゃ)駅に寄る。



（比布駅構内）



（比布神社）

駅の駐車場には、オートバイが6台停まっていた、写真を撮ってお土産を買って層雲峡に向かう。

浜短期大学の友達から聞いていた旭川市に戻らずに、比布駅から国道39に出て、層雲峡までの近道があると聞いていたのを忘れて旭川市に向かってしまった。

途中で気が付いて比布駅まで戻り、地図を広げて確認していると地元の人が寄って来て、一緒に考えてくれたが分からないので、駅の人に聞いて教えてもらう。



(比布駅の前で)

比布駅をあとにして、国道39を目指す。

確かに国道40を南下して、旭川市まで戻る距離と市内の渋滞を抜ける時間を考えると近道だあ。

お土産店の集まっているドライブ・インで休憩、お土産を物色していたら、暇そうな売店のおばさんが声をかけて来て、しばらく世間話の相手をする。

無事に層雲峡に到着すると同時に、観光バスで女子大学生の団体が到着。(凄い数、100人以上で圧倒される)



(層雲峡・流星の滝)

観光客で混雑している、銀河の滝・流星の滝で写真を撮っていると網走刑務所跡で会ったライダーとまた会い、少し話をして別れる。

国道39を戻り旭川市を抜けて、国道39から富良野国道を南下し、美瑛町に向かう途中で天気が回復。

久しぶりの晴れ間、太陽が顔を出した。

人気のない場所を選らんで、オートバイを停めて半乾きの洗濯物を草原に広げて乾かす

。



(原野で洗濯物を乾かす)

富良野に向かう道路は原野では無く草原で、誰もいなくて『北海道に来たぞ!』という気分になる。

ここから、国道237を南下して10数キロ先の浜短期大学の先輩チーコさんの家に行くだけ。

北海道ツーリングは、明日で終わり天気が良ければ北海道は最高のツーリング地、天気が悪くても北海道を満喫した。

洗濯物も乾いたので出発。

富良野の郊外は、地平線まで畑の広がる壮大な農地が広がる。

PM3:00、富良野に到着。

PM3:45、チーコさんの家に到着。

夕食は、ジンギスカンで偶然にも今日、浜短期大学の先輩のYさんとその友達もチーコさんの家に遊びに来ていた。

全走行距離 275.6 km ・ 燃費 20 km

8月14日（金） 晴れ

AM6：30、起きてチーコさんの家で朝食を食べる、久しぶりに布団で寝た。

チーコさんの家は、床屋さんで頭を洗ってもらった。

しばらく頭を洗って無かったので、ヘルメットでペッチャンコだったカーリー・ヘヤーが復活！単なる長髪だったのに復活したカーリー・ヘヤーを見て店員の人が少し驚いていた。

チーコさんの家の人に、とても親切にしてもらって本当に嬉しかった。（友達が良いものだ）

フェリーの時間も考えて、AM9：00に出発の予定だったが名残り惜しくて、出発を遅らせAM11：00にチーコさんの家を出発した。

国道38で歌志内市に向かい、国道12で美唄市・岩見沢市を抜け、国道234で追分町に入り苫小牧市へ。

PM2：52、[フェリー・ターミナル](#)に到着。

予定より出発を2時間、遅らせたので心配だったが何とか乗船手続きの時間に間に合い、昼食¥800（カレーとミックス・サラダ）を食べ満腹。

お腹も満腹になり落ち着いたので、チーコさんの家に無事に着いた事を知らせる。

乗船前に、浜松ナンバーのXL250と話をする。

PM4：00、乗船開始。



（帰りのフェリーは仙台港に寄るので名古屋港行きの  
オートバイと区別する為に取り付ける）

船底にオートバイを置いて、階段を上がって今夜から一日半お世話になる寢床の2等に行く。(2等は人で混雑・・・)

PM5:00、出港、今日で北海道ともお別れ！4泊5日の旅も終わる。また、多くの人と出会い別れた。

地平線まである北海道の広い畑、地平線まで広がる牧場に点々という馬や乳牛群れ。ツーリングを終えて、不調のCB400・FOURは右側のフロント・ホークからOIL漏れ、38,000kmを越していたエンジンはダレ始め全然、吹かなく成ってしまった。

ついに限界！CBとのツーリングも今回で最後かあ？

甲板に出て夕日を見ながら、思い出の深い北海道にビールで乾杯！ビールが美味しい！まあ！色々と有ったが、結果良ければ全てよし！

全走行距離 191.8 km・燃費 18 km/l



8月15日（土） 晴れ

AM5：00、起きる。

大部屋では、ほとんどが家族づれでオートバイ乗りは、俺一人。

話をする人もいないし、暇なので昨夜は早く寝てしまった。

朝日を見ようと思い早起きをしたが、水平線に雲が掛かっている登る太陽を見る事は出来なかった。

帰りのフェリーは、苫小牧港から仙台港に一度寄ってから名古屋港に向かう。

一日半の船旅は暇で時間を持て余す、大半の人は部屋で寝ているか何かを食べている。

甲板に出てブラブラしていたら、名古屋から来たというライダーと話をする。

北海道の話で盛り上がり『あそこは行った！ここはどうだった！』お互いの旅の思い出を語る。

話も尽きて時間を潰すのも、この辺が潮時とお互いに感じとって別れる。

海を見ながら「ボツ～ト」する。暇だ～！風呂に入って寝る。

全走行距離 0 km

8月16日（日） 晴れ

AM6：30、一度起きる。

二度寝、三度寝をしてたらAM8：00になってしまった、今日いよいよ浜松に帰る。

陸地がらだいぶ離れているのに富士山は見える、海から見る富士山もいい！

2時間位、ゆっくりと景色が変わる陸地を眺める。

AM10：30、名古屋港に到着。



（名古屋港に到着）

暖気運転をしエンジンが温まってから吹かしてみるが、やはりエンジンが吹かない不調！

この調子だと東名高速道路を走るのは、無理なので国道で帰る事にする。

フェリー・ターミナルをあとにして、国道23でガソリン・スタンドに寄って、ガソリンを満タンにして国道23から名四を走るが、北海道の気温に成れた体には堪える暑さだ。

何回か休憩を取り、名四から国道1を走り浜松にPM2：00頃に着く。

家に帰る前に行き付けの喫茶店『Blue in Green』に寄り、バイトの小次郎さんに北海道ツーリングの話をする。

家に着いたのが、PM7：20。

何となく『ホット』する。

今年の夏も、色々な人と出会って別れた。

思い出が俺の頭の中を駆け回る。

全走行距離 181.6 km・燃費 20 km/l